



■2010年6月のマンスリーNEWS

■6月のアークル

皆さん1ヶ月のごぶさたです。いかがお過ごしですか？初夏の気配を感じる今日この頃ですが、当社はいよいよ夏場最盛期に突入する直前の準備に入りました。

さて、昨年の年末に当社では自販機セッティングキャンペーンを行いました。よりきめ細かいセッティングをすることにより、よりたくさんのお客様のニーズを汲み取っていかうというのが主旨で行いました。そのキャンペーンで見えてきたことがたくさんあります。例えばサントリーの自販機はホット2室が当たり前と思っていた固定概念が当社の中ではあったのですが、ダイドーの自販機の様に3室までやることによって格段に売上が伸びるということや、よりバラエティーに富んだ自販機にお客様は魅力を感じることなどです。つまり自販機はセッティングによって大きく売上が変化するという事なのです。

ということで今夏も第2弾セッティングキャンペーンを行うことになりました。

内容は以下の通りです。

- ・コーヒーのダブりのセ  
ット制限
- ・自販機見本のバックパ  
ネルシートの貼付
- ・サイドパネルのポップ
- ・正面のポップ
- ・涼しげなイメージの自  
販機
- ・販促シールの添付
- ・その他 e t  
c . . . .



今回のキャンペーンの内容で一番の注目ポイントは“涼しげなイメージの自販機”という点です。一見、とても抽象的な表現と思われるかもしれませんが、私達“自販機のプロ”が見ると一目瞭然なのです。

これらの点に注目をしながら、全ての自販機の写真を撮って採点をし担当ごとに競い合いをします。昨年のキャンペーンは1~3位を海老名（営）のメンバーが独占しました。今夏は小田原（営）のメンバーが黙っていないと思われます。

こんなことをやりながら、アークルの自販機がお客様にとって良い管理の自販機だと思われるように今後も努力を重ねていきますので、皆様ご期待ください。



■先月の売れ筋商品

DYDO売れ筋ベスト5		SUNTORY売れ筋ベスト5		JT売れ筋ベスト5	
1位	ダイドーブレンドコーヒー	1位	ボスレインボーマウンテン	1位	リアルブレンドロイヤルミックス
2位	デミタスコーヒー	2位	ボス贅沢微糖	2位	ルーツビタースタイル
3位	Mコーヒー樽	3位	ボスカフェオレ	3位	ルーツデュアルテイスト
4位	葉の茶290ボトル缶	4位	ボスゴールドプレッソ	4位	ルーツアロマブラック
5位	D-1ファインクリア微糖	5位	ボス無糖ブラック	5位	大地が磨いたきれいな水500P

■国際貢献の旅

タイ・ナコンラチャシーマ (コラート)

4月の末、タイのナコンラチャシーマという街へ私が所属しているクラブの企画で国際貢献の一環として訪問してきました。

目的は日本で廃車となるはずの消防車を私達のクラブが貰い受け、その消防車をタイのコラート県に寄付をするということなのです。今回はその消防車の授与式出席のための訪タイということになります。

その内容をお話するのはまた機会ということしまして、今回皆様に紹介するのは、タイのスラム街になる保育所を訪問しスラム街の人々に少しの食料を分けてきた事を紹介したいと思います。



実はこの訪問は急遽変更になったもので、最初の予定は小学校を訪問し、文具などを寄付する予定だったのですが、小学校が休みということでスラム街の保育所を訪問することになりました。訪問したのは4月19日。タイの4・5月と言えば1年中で最も暑い季節です。スラム街に訪問したときも気温は40度をゆうに越え、容赦なく照りつける日差しに汗がとめども無く噴出してきます。このスラム街はナコンラチャシーマ駅の程近い場所にあり、線路に沿ってバラックがならんでいるのです。もちろん道が整備されているわけではないので、私達はバスを降り徒歩でスラムの中にある保育所に向かいます。

スラム街に入ると、鼻を突くような臭いが漂ってきます。建物は”トタンで出来た掘っ立て小屋”と言うとわかりやすいと思います。外の気温が40度を超えているので、断熱材などが無いトタンだけの小屋では50度以上あるのではないかと思います。

年寄りの人はそこに何をやるわけでもなく、たたずんでいます。若い人はゴミを集めていました。また水道がないのでしょう。リヤカーで水を運んでいる若者もいました。

でこぼこの道を歩くこと15分、保育所といわれる”小屋”の到着です。小屋の奥の壁は、私達がくるということで、少しでも見栄えを良くしようということなのかもしれません、青いビニールシートが貼られています。広さは畳16畳ほどの広さでしょうか。



その奥に見るからに栄養状態の良くない子供が4人ちょこんと座っています。「さあー、お入り

ください。そのまま結構ですから」と土足のまま施設の中に入ります。施設内は予想通り気温50度を超えていると思われま



寄付したお米

今回、結果的に私達はこのスラム街の人達に食料のおコメを寄付することでここに訪問しました。おコメは事前にこちらの方に準備をしてもらいかなりの数、用意をしました。引き換え券を事前にここにいる住人の人々に渡し、それと引き換えに私達が彼らに直接手渡しをするということになっていました。

早速、引き換え券をもった住民達が列をなし私達メンバーがどんどん手渡ししていきます。あっという間におコメはなくなり住民たちは消えていきました。

今回は事前に現地のコーディネートしてくれたメンバーに、スラムの人々に要望を聞いてもらい実施したのですが、良く考えてみると彼らは、食料は食べてしまったら終わりで一時的空腹を満たすだけのものでしかないのです。やはり彼らが自立して生活できるような支援をしなければならないのは、わかりきっていることなのですがこれは国の問題でなかなか簡単なことではないと思います。聞くところによると、スラムの人々は学校に行っていないので”読み・書き”が出来ないとのこと。つまりタイではそのような人は職にありつけないということらしいのです。つまりスラムで生まれた人はそのままスラムで生きていくしかないのです。また人によっては住民登録もしていないようで、このあたりに国の制度の問題が浮き彫りになっているようなのです。

今回このような場所に来て、実際に彼らの生活を目の当たりするとたくさんの思いが湧き出てきます。もちろん自分の境遇に感謝するのはもちろん、世界にはこのように恵まれない人々がたくさんいるという事実も思い知らされ、”私達に何か出来ることは？”ということをもっと真剣に考えなければなんてことを痛感しました。



今回の訪問メンバーKさん、かわいい現地のあかちゃんと・・・



現地の状況を真剣に聞くメンバー達

ところで、コラートからの帰りはバンコク1泊で翌朝の飛行機に乗るスケジュールだったため、バンコクに向かったのですが、泊まるホテルが偶然デモが一番激しい場所のホテルだったので、バスが入って行けず地下鉄でホテルに入ることになりました。ホテルの周辺はものものしい雰囲気、ライフルを所持した警官がたくさんいます。歩道には大きなバラセンが置かれ通行にも不自由するほどでした。ホテルでは絶対にカーテンを開けないほしいという通達もあり、とにかく騒然とした雰囲気で少し恐怖感を覚えました。



## ■コラム

### ■激ウマ!B級グルメ情報 第30弾

#### フランス人シェフが作る御殿場のピザ

今月号で紹介するのは御殿場のピザ屋さんです。

左の写真でもわかる通り、店は掘っ立て小屋みたいで、“海の家”という表現がぴったりなお店です。こんな店構えなので入るのにちょっと勇気がいらいます。(笑)

店に入ると壁一面にべたべたいろいろなものがはってあります。このお店はフランス人のシェフとその奥さん2人で営んでいるそうで、奥さんがとてもフレンドリーで、ピザが出来るまでいろいろなお話しをしながら待つという感じです。

さて肝心のピザですが、イタリアの本格的ピザではなく生地が厚いアメリカンなピザが出されます。チーズ、ハムなどの具材がたっぷりです。

また食べ方が合理的よいな～と思ったのは、ピザをはさみで切って食べるのです。ナイフだと生地がちゃんと切れなかったりするので、「はさみで食べるピザはなんと合理的!」と思いました。



実はこのお店のおすすめはピザだけでなく、キッシュなのです。キッシュは焼きあがるまでに約20分ほどかかるので、早く食べたい人は電話で連絡してから行ったほうがいいと思います。



焼きたて、熱々のキッシュがチーズの良い香りとともに出されるといやがおうでも食欲が湧いてきます。ピザと同様にはさみで切り分けます。プルプルの分厚いキッシュにはさみを入れると中から熱々の中身がトロ〜りとあふれ出てきます。

とても旨そうと思いガブリとやると、口がやけどするので要注意です。

食べきれない場合はもちろんお持ち帰りできますので、ご心配なく。

お店のフレンドリーな人柄と大満足のキッシュで、心もお腹も大満足で帰路につきました。

ちなみにお値段はピザが1500円、キッシュが2000円とB級グルメとしてはやや高めかもしれません。

皆様も是非一度チャレンジしてみてもは？

店名：ピザ ミツ

住所：御殿場市板妻

TEL:0550-89-5465

シェル

588-2

■コラム

■道徳は実利に結びつく

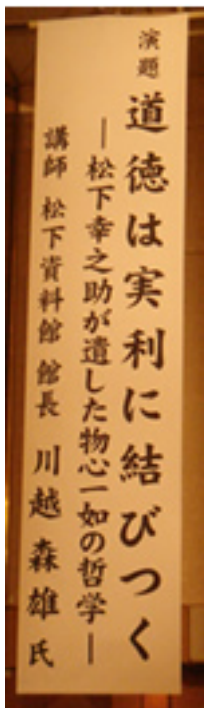
松下幸之助の物心一如の哲学を学ぶ

先日、福岡にて京都・松下資料館館長 川越森雄氏の講演がありました。川越氏は昭和44年に松下電器産業(株)に入社し、即PHP研究所に配属され、松下幸之助の哲学に長年触れてきた人ということで、松下幸之助が遺した物心一如の哲学について話されました。

さて物心一如とは何ぞや？ということです。

ちなみに「経営の神様」と言われている松下幸之助の有名な言葉に「好況良し・不況もまた良し」という言葉があります。これは「不況というものも考え方によっては改善・発展への機会(チャンス)である」との意味だと思います。つまり逆境も前向きにとらえ発展のチャンスなんだということです。

これには松下幸之助の哲学が隠されています。それは・・・



宇宙に存在する全てのものは、つねに生成し、たえず発展する。万物は日に新たであり、生成発展は自然の理法である。人間には、この宇宙の動きに順応しつつ万物を支配する力がその本性として与えられている。人間は、たえず、生成発展する宇宙に君臨し、宇宙に潜む偉大なる力を開発し、万物に与えられたそれぞれの本質を見出しながら、これを生かし活用することによって、物心一如の真の繁栄を生み出すことができるのである。かかる人間の特性は、自然の理法によって与えられた天命である。この天命が与えられているために、人間は万物の王者となり、その支配者となる。

つまり人間のみが物心一如の繁栄を生み出すことが出来る存在で、人間に生まれてきたことに感謝し、その自分の運命を前向きに生かしてこそが真の人間の生き方だということなのです。

ここで今回の講演のパンフレットに書いてあった「幸之助の運命観・人間観」「道徳について」を載せたいと思います。

## 運命を生かす(幸之助の運命観・人間観)

私はよく人から、「今日を築いた成功のコツを話せ」とか言われますが、そういうときは返事に困るのです。そこで「実は自分でもよくわかりません。しいていえば運命というか、そうなるようになっていたのでしょうか」といった返事にならない返事をするのですが、正直なところ私はそう考えているのです。というのは、私よりすぐれた人は世の中に無数にいます。学問のある人、体の丈夫な人、素質才能のある人、どれ一つとってみても、私はずっと下のほうだと思ふのです。にもかかわらず、今日私が多少とも成功している面があるとすれば、それは自分の運命がそうになっていたのだらうと考えざるを得ませんし、またそう考える方が気が楽だと思ふのです。

それを自分が人並み以上に勉強したからこうなっただとか、こういう特別の努力をしたからだとか思ふと、どこかに無理が生まれ、重苦しい感じがしますし、じっさいにそういうものがあつたとは思わないからです。

ただこういうことは言えるかもしれません。すなわち運命というものを自分なりに、あるいは自然のうちに前向きに生かそうと心がけてきたということです。家が貧乏であつたがため小僧奉公に出されて幼いうちから商人としてしつけを受け、世の辛酸を多少とも味わうことが出来た。からだが生来弱かつたためにやがて人に頼んで仕事をしてもらうことを覚えた。学歴がなかつたためにすべての人に教を乞ふことができた。あるいは九死に一生を得たような何度かの経験を通じて、自分の幸運強運を信ずることが出来た。そういうふうには、自分の運命をいわば積極的に考え、それを知らず識らず前向きに生かしてきたからこそ一つの道がひらけたのだということも考えられるでしょう。

## 人間観

- ① 人間の本质は磨けば輝くダイヤモンドの原石
- ② 人はみな違う。それぞれに異なる個性、天分をもっている。
- ③ 自分の持ち味を120%発揮するところに人間としての真の成功がある。
- ④ 原則としてこの世に不要な人は一人もいない。不要なものもない。
- ⑤ 多種多様な人がいてこそ、共同生活を高め、調和ある発展を実現していくことが出来る。

## 道徳は実利実益を生むもの(道徳について)

道徳というものは、人間生活のいっさいの基盤であるといつてきたが、それはどうかたちで実生活に現れてくるか、道徳は精神生活には有意義だが、物的な生活には関係がないのか、という問題である。

これについてはいろいろな考え方があると思ふが、私は、お互いに徳性が養われ、社会全体に正しい善悪観もとづいた活動が生まれてくれば、単に人間関係もよくなるか、精神的に豊かになるというばかりでなく、実際に日常生活もうまく運び、物もより能率的に生み出されてきて物的にも豊かな生活がもたらされてくると思つている。つまり道徳というものは、人間生活の各面に、大きな実利実益をもたらすものだといつてもよいと思ふのである。

例えば、交通道徳を考えてみればよくわかる。もしお互いに交通規制を忠実に守っていくならば、どれだけ事故も少なく、また交通も円滑にいくかわらない。あるいは、尊い人命を失うというばかりでなく、交通事故によって、どれほど多くの人々の時間が無駄に使われ、費用がよけいにかかっているかわからない。だから交通道徳を高めて、交通事故をなるべく少なくしていくことが、人間生活から時間や費用の無駄を省き効率的な活動を営ませることに結びついてくる。そこから得る利益は、測り知ることができないと思ふ。つまり、お互いの生活にそれだけ実利実益がもたらされてくるというわけだ。

また、商道徳といものを考えてみても同様だと思ふ。昔の商人たちは、約束というものを非常に重んじた。盆や暮れの決算日には、いくら夜が遅くなつてもその日のうちに払うべき金はちゃんと払つたというし、万一金のメドがつかなければ、自分の娘を奉公に出してでも金をつくつたという話もあるくらいで、それだけ商取引の秩序もキチツとしており、商売も安心してやれたと思われる。ところが今日では、そういう約束をどの程度責任をもって果たしているかは、非常に疑問である。例えば約束の期限をきわめて無造作に延ばしたり、あるいは初めから詐欺行為をたくらむというケースも増加している現状のようだ。これでは取引の信頼性も失われ、そのために要する時間的なロスや、物的な損害は、驚くほどのものがあると思ふ。

このように、商売の取引ひとつにしても、動議道徳が高いか低いかによつて、その効率がずいぶん違ってくる。つまり実利実益がこれによつて大いに左右されると思ふのである。

松下幸之助の我々に残してくれたものは、とてもわかりやすい上に”もつともだ!”言えるものばかりです。私達は学ばなければいけません。

■アークルの人達ブログ・絶好調連載中です!

ただいまブログは8名が更新中です。

- ・所長のブログ (小田原H所長)
- ・マネージャーの部屋へ
- ・情報最前線 (海老名K所長)
- ・つんつるてんSTORY
- ・販促課オオクワ80mm
- ・産地直送! 新鮮ネタ (海老名Nチーフ)
- ・パソオタの独り言 (パンドラの箱を開けて最後に出てくるのは・・・)



第23回アークルコンペ 伊豆大仁CCで開催  
私達のコンペもなんと23回を迎えました。  
これからも続けていきます～!!

今月は以上です。又、来月号も宜しくお願いします。

■2010年度のマンスリーNEWS

➡	2010.05	アークル	マンスリーNEWS
➡	2010.04	アークル	マンスリーNEWS
➡	2010.03	アークル	マンスリーNEWS
➡	2010.02	アークル	マンスリーNEWS
➡	2010.01	アークル	マンスリーNEWS

■マンスリーNEWSアーカイブ

➡	最新	マンスリーNEWSトップページ
➡	2009年度	2009年のマンスリーNEWSアーカイブ
➡	2008年度	2008年のマンスリーNEWSアーカイブ
➡	2007年度	2007年のマンスリーNEWSアーカイブ
➡	2006年度	2006年のマンスリーNEWSアーカイブ
➡	2005年度	2005年のマンスリーNEWSアーカイブ
➡	2004年度	2004年のマンスリーNEWSアーカイブ
➡	番外編	マンスリーレポート番外編

